

# 福岡大学病院における第一例目の 生体肝移植レシピエント手術の麻酔経験

平井 孝直<sup>1)</sup> 仁田原慶一<sup>1)</sup> 奈良崎志保<sup>1)</sup>  
安元 正信<sup>2)</sup> 池田 静佳<sup>2)</sup> 藤本 実<sup>1)</sup>  
岩切 重憲<sup>1)</sup> 若崎るみ枝<sup>1)</sup> 香取 清<sup>1)</sup>  
真山 崇<sup>1)</sup> 飯星 真理<sup>2)</sup> 楠本 剛<sup>1)</sup>  
杉 恭之<sup>1)</sup> 石田 美紀<sup>2)</sup> 生野慎二郎<sup>1)</sup>  
松永万鶴子<sup>2)</sup> 比嘉 和夫<sup>1)</sup>

1) 福岡大学医学部麻酔科学

2) 福岡大学病院手術部

**要旨：**われわれは、福岡大学病院での第1症例目の生体肝移植の麻酔を経験したので報告する。症例は60歳男性で、慢性C型肝炎による肝臓に対する治療を繰り返していた。麻酔は、イソフルラン、フェンタニルを用いた全身麻酔で行った。無肝期は5時間42分であり、手術時間は20時間5分、麻酔時間は22時間35分であった。術中の出血量は8,550gであり、総輸血量は濃厚赤血球液18単位、新鮮凍結血漿85単位、濃厚血小板液20単位であった。術中に大きな循環変動はなかった。

**索引用語：**生体肝移植, レシピエント, 全身麻酔, 輸血